

ユニツイン／ユネスコチェア事業について

知の交流と共有を通じて、高等教育機関及び研究機関の能力向上を目的とする、ユネスコのプログラム。高等教育機関の国際的な連携・協働を促進することにより、人的・物的資源のシンクタンクとして、また教育・研究機関、地域コミュニティ、政策立案者間の橋渡しの存在としての役割を担うことを目指す。1992 年にユネスコで創設。

1. 事業形態

① ユニツイン(UNITWIN: University Twinning、大学間ネットワーク)

: 合計45ネットワーク(2020 年 2 月現在)

- 複数国に所在する複数の大学または高等教育／研究機関(3－10機関)から成り、ネットワーク全体として、ユネスコと協定を締結
- 同じテーマに取り組む既存の複数のユネスコチェアがユニツインとして申請すること、また、既存の大学間協定のネットワークを拡充してユニツインとして申請することも可能
- 4年ごとに更新(※2018 年 1 月以前のガイドラインでは、協定期間は 6 年)

② ユネスコチェア(UNESCO Chairs、ユネスコ講座): 合計794講座(2020 年 2 月現在)

- チェアホルダー(責任者)、講師、研究者、学者から成る新たな教育・研究ユニットとして、大学または他の高等教育機関に設置
- 大学の部局内に新たに設置、または既存のプログラムの拡充により設置が可能
- 大学の学長とユネスコ事務局長の間での覚書署名により発効
- 4年ごとに更新

2. 対象機関

- 大学又は高等教育・研究機関
- 高等教育・研究分野で活動している NGO[※]
- その他学術研究機関[※]

※ ただし、ユニツイン又はユネスコチェアを設置できるのは、大学又はその他の高等教育機関に限る。

3. プロジェクトの機能

- ユネスコチェアホルダー又はユニツインネットワークコーディネーターの責任

の下、1)非伝統的分野でのプログラム開発、2)教員・学生交流の実施、3)関係分野の授業実施、4)ユネスコの戦略に沿った研究の実施、5)ワークショップ・セミナー・国際会議等の開催、6)刊行物の発行、7)バーチャルコミュニティへの参加等を行う

- 中間年レポートと最終レポート(5月31日締切)をユネスコ本部に提出
- ユネスコのロゴの入ったロゴを使用可能
- ユネスコからの財政支援は行われない
- 協定終了日の6か月前から、協定更新手続きのユネスコへの申請が可能

4. 我が国におけるユニツイン／ユネスコチェア事業

(1) ユニツイン

- ① 斜面災害・水災害に関する研究・教育ネットワーク(京都大学)
- ② 教育開発のためのアフリカ・アジア大学間ネットワーク(広島大学)

(2) ユネスコチェア

- ① 環境・社会基盤開発工学ユネスコ講座(埼玉大学工学部)
- ② ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」(立命館大学歴史都市防災研究所)
- ③ 持続可能な開発のための教育(ESD)と研究に関するユネスコ講座(岡山大学大学院環境生命科学研究科)
- ④ 遺産保護における自然と文化の連携(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
- ⑤ ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策(神戸大学)
- ⑥ 水・エネルギー・災害に関する京都大学ユネスコチェア(WENDI)(京都大学)
- ⑦ 地球環境災害軽減ユネスコチェア(島根大学)
- ⑧ 技学 SDG インスティテュート(長岡技術科学大学)
- ⑨ グローバル時代の健康と教育(大阪大学)

【2019年申請(現在、ユネスコ事務局にて審査中)】

- ユニツイン「技学 SDG ネットワーク」(長岡技術科学大学)
- ユネスコチェア「自然・社会科学および文化の融合による学際的アプローチを用いた災害レジリエント社会の構築」(東北大学)